

1年間のサービ斯拉ーニングを通して

15FF1606 久野佑斗

① 自分の成長と気づきについて

私がこの1年のゼミでの活動を通して、積極的な部分が成長したとっており、そう思うのはサービ斯拉ーニングでの活動などが大きいと思う。なぜなら2年ゼミが始まった4月の頃は消極的で、周りの意見に乗っかったり他の人に任せるということが多かったと私は思う。しかしその後の南粕谷ハウスでのサービ斯拉ーニングで6日間サロンやイベントなど様々なことを体験・活動し、活動最終日には南粕谷ハウスのその時担当だった方から「活動が始まった頃よりは積極的な行動がとれていた」と言われた。確かに以前よりは積極性が増したのではないかと思う。なぜならサービ斯拉ーニング以降、学外のボランティアに参加したからである。以前の私はそういうイベントなどにはあまり参加をしてこなかったため、そう考えると以前より積極性が増したと思う。

次に気づいた事・課題についてだが、まずは1年間のゼミでの活動で積極性が増えたが、私の中ではもっと増やせると思っている。現に増えたとはいってもまだ消極的な部分は多いので、今の自分に満足せず、これからも積極的な行動をとっていきたいと思う。次に連絡の大切さについてだ。これはサービ斯拉ーニングの最中に起きたことなのだが、南粕谷ハウスの担当の方に連絡をするのが遅れるということがあった。担当の方には怒られず注意だけであったものの、もし同じ行為を社会に出た時にやってしまったら間違いなくこの時のような注意だけでは済まないと思う。この時改めて連絡の大切さを知ることができたし、社会に出る前に気づくことができ、良かったと思う。最後にコミュニケーション力についてだ。これはサービ斯拉ーニングだけでなくほかの実習でも言えることなのだが、元々人に話しかけるということが苦手で相手から話しかけられるのを待つということも多かった。そのせいでコミュニケーションさえ取れていれば出来ることがまだあったのにとと思う場面が多くあった。これから実習も増えてくると思うし、社会に出たとき必要になってくると思うので、今後の学校生活で身につけていきたいと思っている。

② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

南粕谷ハウスで実習をしていて、気になるものが二つあった。一つは一人暮らしの高齢者を集めて食事をする集まりに参加したのだが、その際自分が思っていた以上に一人暮らしの高齢者の方々が集まった。その時私たちが思っている以上に一人暮らしをしている高齢者の数は多いのだなと思った。そして周りの人に話を聞くと、まだ家に引きこもりがちの高齢者もいることも知った。なぜ参加する人と引きこもってしまう人とわかれるんだろうと思う。南粕谷ハウスの活動は一人暮らしの高齢者の方々に外へ出てもらおうという気持ちでやっているが、現状として引きこもってしまっている一人暮らしの高齢者もいる。

今は引きこもりがちな一人暮らしの高齢者をどう外に連れ出すかが課題だと思う。もう一つはフードバンクについてだ。フードバンクはまだ食べられるが捨てられる運命にある食品や、中身は普通のものと同じだが店頭に並べることができない商品などをスーパーなどから無償で引き取り、生活困窮者を支援している団体へ無償で配布するというものだ。私は実習中セカンドハーベストへおじゃまする機会があり、セカンドハーベストに集まった食品を見せていただいた。見た目では何がダメなのか分からない食品ばかりで、これらを食べるのに困っている人らに送るのかと思うと、無償でここまで集まるのはすごいなと思った。

地域共生

15FF1788 小松浩章

① 成長と気づき

私が 6 日間お世話になったのは、南粕谷ハウスという南粕谷にあるサロンだ。行っている活動は主にいろいろな年齢層の人たちに居場所を提供するといったものだ。他にも様々なイベントを催しており、地域をつなげているサロンだと感じた。

フィールドワークに行く前の私は、地域に根ざした何かの仕事をしたいと考えていた。しかし明確なことがわからずにいた。地域の中で自分がどのようなことをしたいのか、自分に何ができるのか。それらを考えるのにはどのような仕事があるのかをある程度知っておかないとできない。その点で言うと今回のフィールドワークを通して学んだことは多く、自分の将来の良い参考になった。体験させてもらったのは南粕谷ハウスだけだが、南粕谷ハウスはいろいろな企業や団体や地域の人たちと連携していた。そのため一団体を見たのではなく地域という単位で知れたので、地域の中の関係が分かった。さらに南粕谷ハウスでは地域との関係だけでなく別の地域の企業から食料を配給してもらっており、地域を超えた連携をしている。これも配給する側とされる側とで対等にやりとりができており、それを直で見たことにより仕事とはどういうものかも分かった。それをふまえて南粕谷ハウスのすごいと思ったのがそういった力を貸してくれる団体の数だ。それだけでなくハウス自体で働いている人は社員ではなく全員ボランティアの人たちだ。それを不思議に思い聞いてみると、自分たちに良くしてくれた地域に恩返しをしたいといったような理由で働いていた。このことで南粕谷がいかにか地域の共生を大事にしているかがわかった。南粕谷ハウスは「居場所」を大事にしているが、居場所を作ると同時に自分の居場所も作っており、こういったサロンがもっと増えれば高齢者の居場所問題の改善につながると思った。自分の地元のことを考えても、自分の住んでいる地域をただの場所と考えるのではなく、社会と同じようになにか役割を持つことで様々な人と関わったりできる成長の場として考えられるのではないかと思った。

実習内容だけでなく、社会的に学べたこともあった。それも今回のフィールドワークで一番身にしみて思ったことである。それは社会人の基本とされる「ほうれんそう」だ。私は連絡をこまめに入れるのが苦手で、それも特になおそうとは思っていなかった。しかし 3 日目に名古屋にある企業に連れて行ってもらう時に連絡を入れるのを忘れており、運転手さんに迷惑をかけてしまった。この時に担当の今井さんに、連絡をしっかりと社会に出てやっていけないと言われた。この出来事があったから私は重要な連絡は早く確実に入れるようにしている。人として当たり前のことだが、初歩的なことを勉強させてもらえた。

南粕谷ハウスでの 6 日間で地域の共生や、社会人の基本、高齢者の居場所問題に対する自分の考えなどを学べた。私は大学卒業後に地元に戻り、地域の地域関連の仕事に就きたいと考えているので、ここで学んだことを活かして地域に貢献したい。

② 地域や市民活動

● サロンの設立

南粕谷ハウスでの 6 日間を通して感じた地域のつながりを、ほかの地域で実践するにはどうしたらよいかを考えた。一番実行されて欲しいのは、やはり南粕谷ハウスのような誰でも

も立ち寄れるサロンを複数開業することだ。体験を通して感じたのが、見ず知らずの人たちが集まりサロンを介してつながっていくので連携が取りやすくなっている。そのため地域での活動にも積極的に参加出来ると考えられる。こういった小さな繋がりが多くなれば地域としての団結力が出来てくる。先にも言ったとおり高齢者の居場所の問題にもいい影響が出るのではないと思う。サロンを設立するだけでなく、地域単位の何らかのイベントを催すのもよいと考える。それを定期的にする事で最初はちょっとしたつながりだが、最終的に大きな団結につながる。このつながりは災害時などにも役立つ。災害時に近所の人達とある程度の関係になっておけば声を掛け合って避難し、避難所でも気が紛れる。サロンをつくることによって、居場所問題の改善と、目に見えるものではないが災害時の救済にもつながると思う。

● イベント開催

次に考えたのはイベントを定期的に行うことだ。南粕谷ハウスでは「一人暮らしの集い」という会を定期的に行っていた。この会で解決できると思われるのが、高齢者の居場所問題だ。これに習い対象を子供にしたレクリエーション会を開くのも良いと思う。近年では親が共働きで家に帰っても一人という子供が珍しくない。このことは教育上もよくなく、なにより子供を一人にするのは物騒で危険だ。このような子供を対象にして、学校の放課後などにそういった時間を儲ければ親も心配しなくて良いし、子供も孤独にならなくて済む。さらに子供同士がつながることで、そのつながりが親同士にまで広がるのが期待できる。だからイベントを定期的に行うというのは人のつながりを広げられ、地域に住む人々の心の余裕や娯楽などにもつながる。地域で活動的に生活するためにもイベントの開催は是非とも実践につながって欲しい。

● ボランティアの呼びかけ

地域に住む人間が平等に住みやすくするために、地域の中でその問題を解決したい。そうになると様々な分野でボランティアが活動するのが理想的だ。しかし私の見解ではボランティアがありこそはするものの、その存在を知らない人が多いように思える。だからまずボランティアの存在と活動を知ってもらい、さらに呼びかけをすれば興味を持つ人が増えて行くと思う。仕事をしている人にはあまりそういった時間がないかもしれないが、休日の1日だけでも使えば社会貢献になるのでいろいろな人が集まると良い。私の知るボランティアの中でも集まりがよいのが消防団だ。消防団に属している人のほとんどが仕事をしており、若者からお年寄りまで様々な年代が集まっている。ではなぜ集まりがいいのかと考えると、それはいろいろな仕事で違う環境で生活している人が集まっているのでその空間が楽しいからではないかと思う。定期的に宴会じみたこともやっているみたいなので、そういったところも集まりの良さにつながっているのかもしれない。だから呼びかけるときにはメリットの提示と明確な内容を知ってもらえるようにしなければならない。

サロン、イベント開催、ボランティアの呼びかけなどをあげたが考えれば市民活動はいくらでもある。一番大切なのは、地域に住む人たちが地域をより良くしたいと思えるようになることだと考える。その考えに至ったのは南粕谷ハウスでの体験のおかげだ。地域で生きるとはどうゆうことなのか、地域に貢献したいと思えるきっかけを学べた。ここで学んだことを活かし、地域が共生することのよさを広めていきたい。

自分のリーダー性の成長

15ff1648 倉田隆司

①自分の成長と気づきについて

今回のサービスマーケティング活動全体を通して私は3つのことに成長を感じ、2つのことに気づいた。

最初に成長について感じたこと3つを述べる。1つ目は自分で考え行動する力が成長したと思う。私は、グループリーダーとして、グループをまとめることができたと思う。そのまともていく中でやはり、誰かが率先して行動をしなければならぬことが多い。活動中に何をやるのか、ハウスに来た方と何を話せばいいのかわからないことが多い。そんな時に、活動先の人にアドバイスを聞いてみたりして私が手本になることでグループメンバーを引っ張っていくことができたと思う。

2つ目はまとめるが成長したと感じる。先程も述べたようにメンバーをまとめることができたと思う。自分たちで企画を考える時に、チームの意見を聞き企画でやりたいことを書いていったり、協力してくれるボランティアの方との連絡や金銭面をどうするかを話し合ったりして、情報を共有しまとめることができたと思っている。

3つ目は計画力が成長したと感じる。私たちはサービスマーケティング活動最終日にイベントをやるということで、企画に向けて何をやっていくのか活動先と顔合わせの時からどのようなイベントにするか話し合い計画を立てていった。話し合いの中でイベントに協力してくださるボランティアの方などおられて活動中の休憩の合間を使いイベント時の物の配置や催し物の時間配分等、メンバーと活動先の方、ボランティアの方と話し合ったりした。結果「安楽笑（あんらくしょう）イベント」を開催することができた。多くの地域の方が来てくださり、テレビやラジオの取材などもあった。多少誤差はあったが計画通りに行えたと思っている。

次に気づいたことを2つのことを述べる。1つ目はコミュニケーションである。ハウスは、高齢者中心のサロンである。元気な方が多く、私たちによく話しかけてくれる。とにかく、活動先の方も含め、地域の方々は積極的に話しかけてきてくれた。私たちにとって話しかけてくれることは有り難いことであるが、急に話しかけられ戸惑いもあった。でも、会話はできていた。周りのメンバーとハウスに来た方との会話を観察していて、自分では、できない話し方やそんな話し方もあるのかと気づきにもなった。

2つ目に地域の連携力に気が付いた。活動最終日のイベントでは予想では60人くらいが来てくれるだろうと思っていたが、実際にイベントに来てくれたのは150人以上と、予想よりも2倍以上の地域の方が来てくれ大盛況だったのである。この時、これだけの方が集まってくれたのは、地域の方々自らが私たちのイベントを地域中に宣伝してくれたからだと思う。私たちも活動中、ハウスに来ていただいた方々に宣伝させてもらったが、お互いの情報の連携がうまく成り立っていたからだと思う。

②活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題

毎月第一土曜日に南粕谷ハウスの場所を借りて、民生委員の方が「一暮らしの集い」をしている。そこでは、同じ境遇の方々が集まる場所であった。1グループ5、6人で分けられ、席は早い者勝ちのシステムである。私はいくつもあるグループのうち、1つのグループには行って話をした。話をしているうちに「交通の便が悪い」という話になった。若い人たちは自分の車で移動するけど、高齢者はバスでの移動がメインになっている。病院に行くのにも時間がかかり、もしもの時があったら不安と言っていた。

私は、南粕谷ハウスでの活動を通してみて南粕谷は住心地が良いところだと感じた。交通量も少ないし、地域の方々は親切で優しく、元気であるという印象が残っている。しかし、交通の便だけは不便だった。バスの移動をしようにも本数が1時間に1,2本と少なく、行動時間がかなり制限されていた。

今の課題として、交通の便をどう改善していくのかが考えられる。